

新工ネ・環境・総合

大学解剖

明大

1面から続く

明治大学のユニークな理系の強化戦略は数学だけではない。首脳陣の総合大学には珍しい農学部も最近、存在感を高め、特に女子学生をひきつける。

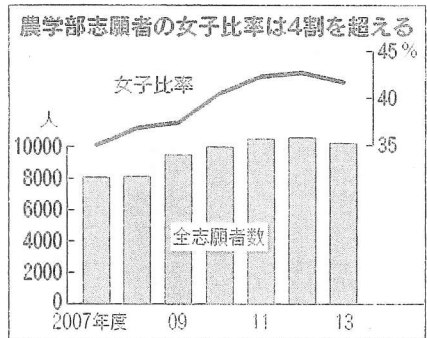
「MARCH」抜け出せ



「農場実習」は9割超の学生が履修する人気科目(川崎市の黒川農場)

農学部で理系女子輝く

設備を併せ持ち、本拠地 つぎでスキを使って土を一部で、実習も必修ではの生田キャンパス(同) 耕していた。種まきから ない。にも関わらず、全から通える距離にある。 収穫までの農作業を毎年 4学科の1年生の9割以上が履修する「農場実習」 科目だ。



泥にまみれる実習 人気殺到

泥にまみれながらも「皆 テクノロジーを学、農業で作業できるのが楽しい 化学科の新入生は女性が6割だ。「リケジョ(理系女子)」獲得の成功例だ。」と笑顔を見せた。共同作業で同級生との絆を深め

農学部で目を引くのが 新学部づくりや設備投資を通じた明大ならではの理系の強化は、実際に女子学生の多さ。食料や 高校生を魅力的にひきつける環境といった農学部の研究領域が、女子高生にも ながっている。

身近になり、関心を集める 今後は、明大自ら「弱景にある。早稲文学部 青山学院、立教、中央、長も「社会での『農学』 法政とともに首都圏5大学」の位置づけが変わってき 学「MARCH」と呼ばれている」と話す。

過去5年で志願者数は 増えてきたが、獲得した優秀な人材をもとにその課題を克服できれば、そこから抜け出す日もみえてくるだろう。